

# 【国語・小4・「ごんぎつね」】①

## 育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
- (思、判、表等) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
- (学びに向かう力、等) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

## ICT活用のポイント

複数の思考ツールを活用して各自で整理した考えを、ペア学習で広げ、先生のコーディネートによる集団解決で深めた授業

### 事例の概要

【自力解決】  
自分の考えの根拠を整理する

【集団解決 1】  
ペアで考えを伝え合う

【集団解決 2】  
学級全体でそれぞれの立場について意見交流する

【まとめる】  
意見交流をもとに改めて自分の考えをまとめる

- 「ごんぎつね」の終末の場面において「ごんと兵十の心はつながれたのか」という学習課題について、意見交流を通して一人一人の感じ方の違いに気付き、考えを深めていくことをねらった授業である。
- 読み取ったことをまとめ、情報を整理し、自分の考えを伝え合う際の提示資料として学習支援ソフトの複数の思考ツールを使用する。

### 事例におけるICT活用の場面①（自力解決）

- 教科書の叙述から読み取れる登場人物の気持ちをキャンディチャートで整理する。
- 思考ツールをクラゲチャートに切り替え、自分の立場と根拠となる叙述を提示できるように情報を整理する。

### 事例におけるICT活用の場面②（集団解決 1）

- 1度目の交流では同じ立場、2度目の交流では違う立場の友達を探してクラゲチャートを見せながら自分の考えを伝える。
- クラゲチャートを共有し、自由に閲覧し合える状態にする。

## 【国語・小4・「ごんぎつね」②】

### 【事例におけるICT活用の場面①】



自力解決の場面では、前時にキャンディチャートで整理した教科書の叙述とそこから読み取れる登場人物の気持ちを、授業支援ソフトの思考ツールの切り替え機能を使ってクラゲチャートに切り替えた。キャンディチャートで整理することで、登場人物の気持ちの根拠を叙述に求めるという指導を徹底できるメリットがあった。また、クラゲチャートで整理し直すことで自分の立場の根拠となる叙述を複数提示する意識が高まるメリットがあった。

整理されたクラゲチャートは、回答提出機能・回答共有機能を使って児童が自由に閲覧できるようにした。

### 【事例におけるICT活用の場面②】



集団解決1の場面では、2段階のペア学習が行われた。1度目の交流では同じ立場、2度目の交流では違う立場の友達を探してクラゲチャートを見せながら自分の考えを伝えた。学習支援ソフトの回答共有機能により友達の思考ツールを見直せるため、交流の後で友達のクラゲチャートを参考に、自分の立場の根拠を増やす児童が見られた。

交流を通して、自分の立場の根拠をより確かなものにしたため、集団解決2の学級全体での意見交流では活発な話し合いが行われ、学びが深まった様子が見て取れた。

### 【活用したソフトや機能】

- ・学習支援ソフト
- 思考ツール
- テキストカード
- 回答提出機能
- 回答共有機能